

看護過程					
2020 年度入学 2 年次	単位	1 単位 (30 時間)	講師	吉村 美華	実務経験の有無
					有
<p>I. 学習目的</p> <p>看護過程の概念と意義、そのプロセスを学習し、紙上事例を用いた看護過程の展開を通して問題解決思考という技術の基礎的能力を養う。</p>					
<p>II. 学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の概念と意義、そのプロセスを理解できる。</li> <li>2. アセスメントの視点を理解できる。</li> <li>3. 事象を多面的にとらえ、事実に基づいた合理的な判断の仕方を体験的に理解できる。</li> <li>4. 統合体としての対象の全体像の把握の仕方を体験的に理解できる。</li> <li>5. 問題解決または目標達成に向けて個別性に合わせた看護を実施するための表現方法を体験的に理解できる。</li> <li>6. 理解・思考した事を言語化し、主体的に他者と意見交換できる。</li> </ol>					
<p>III. 学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の概念とそのプロセス</li> <li>2. 情報とアセスメントについて</li> <li>3. アセスメント (個人ワーク)</li> <li>4. アセスメント (GW)</li> <li>5. アセスメント (GW)</li> <li>6. アセスメント (GW)</li> <li>7. アセスメントまとめ</li> <li>8. 関連図・全体像について</li> <li>9. 関連図・全体像 (GW)</li> <li>10. 関連図・全体像のまとめ</li> <li>11. 看護計画の立案について</li> <li>12. 看護計画 (GW)</li> <li>13. 看護計画の立案のまとめ</li> <li>14. 看護計画の評価・修正について</li> <li>15. 看護過程と看護実践のまとめ</li> </ol> <p>ゴードンの 11 パターンに基づき、紙上事例を用いて看護過程を展開 (講義と演習)</p>					
<p>V. 評価方法：筆記試験 50%、課題・提出物 50%</p>					
<p>VI. 教材：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド 照林社</p>					

# 看護学概論

2021 年度入学  
1 年次

単位

1 単位 (30 時間)

講師

佐藤 節子

実務経験の有無

有

## I. 学習目的

看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学び、人間が健康に生きることを支える看護の目標とあり方を学ぶ。

## II. 学習目標

1. 看護の歴史的な変遷を社会的変化との関連から理解する。
2. 看護の定義と対象を理解する。
3. 健康の概念、健康に及ぼす因子を理解する。
4. 看護の目的、役割と機能を理解する。
5. 看護の代表的な理論を知り、看護実践への活用について考えることができる。
6. 看護の法律と倫理、教育制度について理解する。

## III. 学習内容

1. 看護とは、看護の定義
2. 看護の歴史、看護の概念①
3. 看護の概念②
4. 看護の概念③ (V. ヘンダーソン)
5. 看護の概念④ (V. ヘンダーソン)
6. 看護の概念⑤ (F. ナイチンゲール)
7. 看護の概念⑥ (F. ナイチンゲール)
8. 看護の概念⑦ (F. ナイチンゲール)
9. 看護の概念⑧ (F. ナイチンゲール)
10. 看護理論
11. 看護と法律、教育制度、専門職としての看護、看護実践と看護活動の場
12. 看護マネジメント、さまざまな制度、医療安全
13. 災害・国際看護
14. 看護倫理①
15. 看護倫理②、看護過程・診断、看護研究

## IV. 評価方法：筆記試験

V. 教材：看護学概論 看護追及へのアプローチ 医歯薬出版株式会社  
看護六法 令和3年度版 新日本法規  
ナイチンゲール看護覚え書（決定版） 医学書院  
看護の基本となるもの 日本看護協会出版社

# 看護研究

2021 年度入学 3 年次	単位	1 単位 (15 時間)	講師	佐藤 節子	実務経験の有無
					無
I. 学習目的 看護研究の具体的なプロセスを学び、研究における基本的な知識・方法・態度を習得し、看護を系統的・学究的に探求すること及び、看護者として主体的に学ぶ姿勢の必要性を理解する。					
II. 学習目標 1. 看護研究の意義について理解できる。 2. 看護研究の分野と方法について理解できる。 3. 文献検索・文献クリティークの方法を理解できる。 4. 看護研究のためのデータ収集・分析方法について理解できる。 5. 看護研究における研究計画書の重要性を理解できる。 6. 研究論文の作成方法を理解できる。 7. 研究における倫理的課題について理解できる。					
III. 学習内容 1. 看護研究の意義 2. 看護研究の目的と分野 3. 看護研究の方法とデータの収集・分析方法 4. 看護研究の進め方 5. 看護研究の現状と方向 6. 看護研究の対象となる人の人権の保護(倫理的配慮) 7. 看護研究の実際 (研究計画書作成) 8. 研究計画書についての GW (クリティーク)					
IV. 評価方法：筆記試験 50%、研究計画書 50%					
V. 教材：看護研究 医学書院 看護学生のためのケーススタディ メヂカルフレンド社					

# 基礎看護技術論 I (共通援助技術)

2021 年度入学 1 年次	単位	1 単位 (30 時間)	講師	小松 未緒 松井 光子	実務経験の有無
					有
I. 学習目的 看護技術の概念を理解し、看護技術に共通する基本的技術を習得する。					
II. 学習目標 1. 看護技術の意味と科学性について説明できる。 2. 看護実践における安全・安楽・自立・自律の意味を説明できる。 3. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法について理解できる。 4. 感染予防における基本的知識を理解し、看護者の基本的態度およびスタンダードプリコーションに基づいた技術を身につける。 5. 生活の場における環境調整の意義を理解し、看護の対象となる人の生活環境を整えるための基本的な技術を習得する。					
III. 学習内容 1. 看護技術の概念 (2 時間 小松) 1) 看護技術とは 2) 看護における安全、安楽、自立、自律について 3) 看護技術の評価について 4) 基礎看護技術論の内訳  2. コミュニケーション、感染予防、環境の技術 (28 時間 松井) 1) 看護におけるコミュニケーション① (講義) 2) 看護におけるコミュニケーション② (演習) 3) 感染とは、感染予防の基礎知識、スタンダードプリコーション (講義) 4) 衛生的手洗い、防護用具、滅菌・消毒・洗浄、感染性廃棄物、隔離法 (講義) 5) 衛生的手洗い、擦式消毒、防護用具 (マスク、手袋、エプロンの着脱)、消毒液の作り方 (演習) 6) 環境とは、環境を整える技術、ベッドメイキング、環境整備 (講義) 7) ベッドメイキング① 教員デモンストレーション、ベッドメイキング (演習) 8) ベッドメイキング② (演習) 9) ベッドメイキング③ (演習) 10) ベッドメイキング④ (演習) 11) ベッドメイキング⑤ (演習) 12) 臥床患者のリネン交換① (講義、演習) 13) 臥床患者のリネン交換② (演習) 14) 【技術チェック】					

感染予防 \*衛生学的手洗い・擦式消毒・手袋・エプロン・マスクの着脱  
リネン交換\*下シーツ・毛布（包布）・枕、環境整備 /全15回

V. 評価割合：筆記試験 80%、技術チェックと取り組み姿勢 20%

筆記、技術の2項目より評価し、すべての合格により単位を認定する

VI. 教材：新体系看護学全書 11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社  
新体系看護学全書 12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社  
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア  
看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

## 基礎看護技術論Ⅱ (日常生活の援助技術)

2021 年度入学 1 年次	単位	2 単位 (45 時間)	講師	須貝 素 佐藤 節子 馬場 敬子 川口 奈緒美	実務経験の有無  有
<p>I. 学習目的</p> <p>対象の健康状態を把握する為の観察・アセスメント技術、人間にとっての日常生活行動（食事・栄養摂取、排泄、活動・休息・睡眠）の意義としくみを理解する。また根拠に基づき、健康を促進するために必要な日常生活の援助技術を安全、安楽に提供できるための知識、技術、態度を習得する。</p>					
<p>II. 学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における観察の意義、目的、基本的方法を理解できる。</li> <li>2. 対象の健康状態をアセスメントするための基本的技術を習得する。</li> <li>3. 生命維持に必要な食事・栄養摂取の意義を理解し、食事の基本的な援助技術を習得する。</li> <li>4. 生命維持に必要な排泄の意義を理解し、排泄の基本的な援助技術を習得する。</li> <li>5. ボディメカニクスの原理を理解し、看護実践に活用する基本的技術を習得する。</li> <li>6. 人間にとっての活動・休息・睡眠の意義を理解し、対象の活動と休息を整えるための基本的な援助技術を習得する。</li> <li>7. 看護における対象の安楽の意義を理解し、安楽を促進するための基本的な援助技術を習得する。</li> </ol>					
<p>III. 学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の健康状態を把握する為の観察・アセスメント (須貝 14 時間)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護における観察の意義</li> <li>2) 観察・アセスメント技術                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生命の徴候</li> <li>(2) バイタルサインの測定 (技術チェック)</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 食事・栄養摂取の援助 (佐藤・川口 2・3 合計 18 時間)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食事・栄養摂取の意義としくみ</li> <li>2) 食事・栄養摂取のアセスメント</li> <li>3) 食事の援助                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 病院食の条件と種類</li> <li>(2) 食事動作に応じた援助</li> <li>(3) 誤嚥の予防</li> </ol> </li> <li>4) 非経口的栄養法</li> <li>5) 食事援助の実際                 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 臥床患者の食事援助 (演習)</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>					

### 3. 排泄の援助

- 1) 排泄の意義としくみ
- 2) 人間の尊厳と排泄
- 3) 排泄のアセスメント
- 4) 排泄の援助
- 5) 排尿・排便障害のある患者の援助
  - (1) 排尿・排便障害について
  - (2) 腹部マッサージ、腰背部温罨法
  - (3) 食事療法、生活指導
- 6) 排泄の援助の実際（演習）
  - (1) 各種便器・尿器の当て方
  - (2) おむつ交換
  - (3) 床上排泄の援助（技術チェック）

### 4. 活動・休息・睡眠の援助（佐藤・馬場 4・5 合計 14 時間）

- 1) 活動・運動の意義
- 2) 活動・運動に影響する要因とアセスメント
- 3) 活動・運動の援助
- 4) 体位変換、移動・移送
  - (1) ベッドから車椅子への移乗援助（演習）
- 5) 休息・睡眠の意義
- 6) 休息・睡眠に影響する要因とアセスメント
- 7) 休息・睡眠の援助

### 5. 安楽確保の援助

- 1) 安楽とは
- 2) ボディメカニクスの原理と看護実践への活用
- 3) 安楽を促進するための援助
- 4) 安楽な姿勢・体位を保持する援助（演習）

／全 46 時間 23 回

IV. 評価方法：筆記試験 70%（須貝 50%、佐藤 20%）・技術チェックと取り組み姿勢 30%（須貝、佐藤各 15%）、筆記、技術の 2 項目により評価し、すべての合格により単位を認定する。

V. 教材：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社  
新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社  
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア  
フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア

## 基礎看護技術論Ⅲ（日常生活の援助技術）

2021年度入学 1年次	単位	1単位（30時間）	講師	小松 未緒	実務経験の有無
					有
<b>I. 学習目的</b> 人間にとっての清潔援助の必要性と原理・原則を理解し、対象者に応じた安全で安楽な援助を 考えることができる。また、対象者が健康的な生活をおくるために必要な整容や衣生活に関する 基本的な日常生活援助技術を習得することができる。					
<b>II. 学習目標</b> 1. 清潔の意義と目的、対象者について考えることができる。 2. 皮膚のメカニズムを理解し、清潔援助が身体に及ぼす影響を理解できる。 3. 身体各部の清潔を保つための基本的な援助技術を習得できる。 4. 衣生活の意義、目的を理解し、健康的な生活を送るための基本的な援助技術を習得できる。					
<b>III. 学習内容</b> 1. 清潔の援助 (24時間) 1) 清潔の意義 2) 皮膚のメカニズムと清潔援助 3) 汚れを落とし皮膚を守る清潔援助 (1) 入浴、手浴（演習）、足浴（演習） (2) 全身清拭、部分清拭（演習） (3) 頭髪の手入れ（洗面所で座位での洗髪、ケリーパッドによる洗髪）（演習） (4) 身だしなみ（整容、爪きり、口腔ケア）（演習） (5) 羞恥心を伴う清潔援助  2. 衣生活の援助 (6時間) 1) 衣生活の意義 2) 療養に適した寝衣の条件 3) 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 (1) 臥床した人の寝衣交換（演習）  3. 下肢清拭（技術チェック）  <p style="text-align: right;">／全15回</p>					
<b>IV. 評価割合：筆記試験 70% 技術チェックと取り組み姿勢 30%</b> 筆記、技術の2項目より評価し、すべての合格により単位を認定する。					
<b>V. 教材：新体系看護学全書12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア					

## 基礎看護技術論Ⅳ（臨床実践に向けての技術）

2021年度入学 1年次	単位	1単位（30時間）	講師	小松 未緒	実務経験の有無
					有
<p>I. 学習目的</p> <p>より良い看護を実践するために、対象に合わせた看護技術を提供する方法を学ぶとともに事実や思考を的確に表現する技術を習得する。</p>					
<p>II. 学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の知識、技術をもとに身体・心理・社会の三側面から対象者をとらえ、対象者に合った看護技術を実施することができる。</li> <li>2. 看護記録の意義・必要性和種類について理解し、看護記録に必要な要素を的確に記載する基礎的な技術を身につける。</li> <li>3. 看護における教育機能の概要を学び、指導の対象者と領域、および指導の必要性和方法について理解することができる。</li> </ol>					
<p>III. 学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合看護技術演習 (18時間) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者体験（演習）</li> <li>2) 事例の課題をもとに、対象者を三側面から捉え対象者に合った看護を考える。 グループワーク、グループ発表（演習） 対象者に合わせた看護技術の実施（技術チェック）</li> </ol> </li> <li>2. 看護実践における記録 (12時間) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護記録に関する法的規定</li> <li>2) 看護記録の目的と意義</li> <li>3) 看護記録の構成要素と記載基準</li> <li>4) 看護記録および診療情報の取り扱い</li> </ol> </li> <li>3. プロセスレコードの書き方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 相互関係の場面の再構成</li> </ol> </li> <li>4. 対象の安全や看護の質の保障のための報告 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 報告の必要性和方法</li> </ol> </li> <li>5. 教育活動 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の教育機能</li> <li>2) 指導技術の基本となるもの</li> <li>3) 指導の対象者と領域</li> <li>4) 指導の進め方</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">／全15回</p>					
<p>IV. 評価方法：筆記試験 70% 技術チェックと取り組み姿勢 30 %</p> <p>筆記、技術の2項目より評価し、すべての合格により単位を認定する。</p>					
<p>V. 教材：新体系看護学全書 11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア</p>					

## 基礎看護技術論Ⅴ（系統的診察法と呼吸・循環を整える技術）

2021年度入学 1年次	単位	2単位（45時間）	講師	馬場 敬子	実務経験の有無
					有
<p>I. 学習目的</p> <p>対象の健康状態を把握するために必要な系統的な身体的観察技法の知識・技術を学び、呼吸・循環機能を整える基礎的技術を習得する。</p>					
<p>II. 学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の身体状態を系統的に観察する方法を身につける。</li> <li>2. 系統的な観察を通して得られた情報を解釈する能力を身につける。</li> <li>3. 呼吸・循環の機能低下が生命活動や生活に及ぼす影響をふまえ、影響を低減・解消するために必要な基礎的技術を身につける。</li> </ol>					
<p>III. 学習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体計測：身長・体重・胸囲・腹囲・頭囲・握力・肺活量（2時間）</li> <li>2. 呼吸を整える技術（12時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸の意義としくみ</li> <li>2) 呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本</li> <li>3) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法</li> <li>4) 気道分泌物の排出の援助</li> <li>5) 酸素吸入療法</li> <li>6) 胸腔ドレナージ</li> </ol> </li> <li>3. 循環を整える技術（6時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 末梢循環の機序・浮腫の発生機序</li> <li>2) 圧迫療法・医療徒手リンパドレナージ</li> <li>3) 体温管理・保温の援助</li> </ol> </li> <li>4. フィジカルアセスメント（26時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィジカルアセスメント総論と問診</li> <li>2) 呼吸のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント</li> <li>3) 循環のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント</li> <li>4) 腹部のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント</li> <li>5) 脳・神経のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント</li> <li>6) 運動器のフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント</li> <li>7) 事例を用いた演習</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">／全46時間 23回</p>					
<p>IV. 評価方法：筆記試験 80%、事例を用いた演習 20%</p>					
<p>V. 教材：新体系看護学全書 11 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社  新体系看護学全書 12 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社  看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア  看護がみえる vol. 2 臨床看護技術 メディックメディア  フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア</p>					

## 基礎看護技術論VI（診療・検査に伴う看護技術）

2020年度入学 2年次	単位	2単位（45時間）	講師	川口 奈緒美 田谷 幹子	実務経験の有無 有
I. 学習目的 診療・検査に伴う看護技術について理解し、基本に則り安全で安楽な看護技術を実践できる基礎的能力を身につける。					
II. 学習目標 1. 診療の目的と看護の役割について理解することができる。 2. 検査・処置における看護師の役割を理解し、基本的な知識・技術を習得できる。 3. 薬物療法の基本を理解し、安全で適切な与薬を行うための基本的技術を習得できる。 4. 創傷の基本的知識を習得することができる。					
III. 学習内容： 1. 診察・検査における看護師の役割と看護技術（川口 18時間） 1) 身体侵襲を伴う援助技術とは（6時間） 2) 検査に伴う看護技術 （1）看護師の役割 （2）排泄物の検査（尿の検査、便の検査、喀痰検査） （3）体液、組織検査（血液検査、穿刺液の検査） 3) 創傷管理技術（6時間） （1）創傷管理の基礎知識 （2）創傷の観察 （3）創傷の処置（包帯法の演習） （4）褥瘡の予防 4) 排泄の援助技術（6時間） （1）排泄に関する処置（浣腸、適便、ストーマケア、一時的導尿の演習、持続的導尿） 2. 技術与薬・輸血の技術（田谷 28時間） 1) 与薬に関する基礎知識 （1）薬物療法の理解 （2）薬物療法における看護師の役割 （3）薬物療法を受ける患者の援助 2) 経口与薬法 3) 外用薬の皮膚・粘膜適用 4) 注射法 （1）注射法の基礎知識 （2）各種注射法（皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射の演習） 5) 輸血療法 ／全46時間23回					
IV. 評価方法：筆記試験70%（川口30% 田谷40%） 演習30%（包帯法10% 一時的導尿10% 注射法10%）					
V. 教材：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II メヂカルフレンド社 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえるVol.2 臨床看護技術 メディックメディア					

# 臨床看護総論

2021年度入学 1年次	単位	1単位（30時間）	講師	小松 未緒 田谷 幹子	実務経験の有無 有
I. 学習目的 生活や疾病により起こりうる主要な症状のメカニズムとそれらが対象者に及ぼす影響を理解し、症状を緩和するために必要な問題解決法の基礎的能力を習得することができる。					
II. 学習目標 1. 健康障害が人間の生命活動や生活に及ぼす様々な影響について考えることができる。 2. 対象者への適切な看護を導き出すために必要なプロセスを理解できる。 3. 臨床で出会う対象者の症状のメカニズムと苦痛緩和への基本的な看護を考えることができる。 4. 主体的に学習し、相互に協力、責任をもって学習内容の理解に努めることができる。					
III. 学習内容 1. 疾病が人間に及ぼす影響と看護の役割（小松 6時間） 1) 健康障害をとらえる看護の視点 （1）発達段階別、経過別、家族の機能 （2）関連図作成の目的・方法 2. 主要症状のメカニズムから看護を導き出す方法（小松 田谷 12時間） 1) 5つの症状について 個人ワーク、グループワーク （1）呼吸困難 （2）高血圧 （3）発熱 （4）疼痛（胸痛） （5）嘔気（悪心）・嘔吐 2) グループ発表 3. 対象者の全体をとらえる全体関連図の作成（小松 田谷 12時間） 1) 事例をもとに、対象者の苦痛や看護について共通理解する 2) 症状を呈する患者の看護 3) 個人ワーク、グループワーク 4) グループ発表 まとめ ／全15回					
IV. 評価方法：筆記試験 80% 演習発表と取り組み姿勢 20%					
V. 教材：看護過程に沿った対症看護 学研、配布資料					